

6月は心の絆を深める月間でした

スローガン

「わたしから行動で示す思いやり 小川っ子」

小川小なかよし宣言

「き——気づいたら、すぐ行動」

「ず——進んであいさつ」

「な——仲間を大切に」



6月は、心の絆を深める月間でした。委員会で、スローガンと小川小なかよし宣言を掲げ取り組みました。6月29日の心の絆を深める集会では、委員会のメンバーが全校児童の前で宣言を発表し、児童が互いを改めて知るためのゲームと縦割り班活動で絆を深めました。また、心の絆を深める集会の校長講話では、次のようにお話をしました。



心の絆を深める集会

～みんなちがって みんないい～

今月は、心の絆を深める月間です。さて、「ぞうさん」の歌を知っていますか。ちょっと、みんなで歌ってみましょうか。「ぞう～さん♪・・・」。この詩は、「まど みちお」さんが作られたものです。まどさんは、この詩に人間の悲しさと素晴らしさの2つの思いが入っているとおっしゃっています。

象さんは、他の動物と違って鼻が長いですね。それを見た他の動物が自分とは違うものだから「おかしい」「変だな」と感じて「お鼻が長いのね。」と指摘します。これは、私たちの生活の中にもよくあることです。体の大きい人、小さい人、走って速い人もいれば、校長先生のように病気になって走ることができない人もいます。絵が得意な人もいれば、苦手な人など周りにはいろんな人がいます。それが当たり前です。しかし、自分と何か違うところを見つけると、すぐに変だぞ、おかしいぞといったり、意地悪を言ったりする人もいます。話し合う時も同じです。みんなと違う意見を言うと「えーっ」「うそ」といって嫌な言葉を言われたりします。とても悲しい気持ちになります。自分に自信が持てなくなります。もう人と違う意見は言わないようにしようと思いたくなります。違う意見があるから学び合えるのにね。

しかし、この象さんは違います。みんなが言ったことを気にしていません。堂々と「そうよ 母さんも長いのよ」と答えています。詩を書いたまどさんは、「象に生まれてきて良かったぞう」という思いを表現したかったと言っています。また、みんなが同じでなく、違うからこそ楽しいし、幸せなんだと語っています。「みんなちがって、みんないい」「自分を大切にする。」「自分と同じように他の人を大切にする」そんな人になってほしいと思います。



豊かな心の育成を

他の学年の人との交流で

国立教育政策研究所の研究でも異学年との交流をすることで「他の人とうまく関わることができる」という自己評価が高くなると検証されています。

本校では、いろいろな場面で縦割り班を活用した体験活動を実践しています。子どもたちが人と関わる喜びや、高学年が年長者としての自覚を持つ、いい機会になっていると思います。



【縦割り班活動(人権集会)】



P T Aの方々との交流で 田植え

6月28日(木)に5年生が田植えを実施いたしました。片山善文さんの田んぼをお借りして、P T Aの方々のご協力を賜りながら、もち米の苗を手で植えることができました。最初は、難しいのか作業に時間がかかっていましたが、最後は手慣れた手つきで予定よりも30分も早く終わることができました。自分で植えた苗です。稲刈りが楽しみです。

地域の方々との交流で

熊本版コミュニティ・スクール

H27年中央教育審議会において、①地域とともにある学校②子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築③学校を核とした地域づくりの推進が示され、コミュニティ・スクールを推進するよう提言されました。本校の場合は、熊本版コミュニティ・スクールとして平成27年度に教育懇話会という形で組織を立ち上げてスタートさせ、本年度で4年目になります。初市に造り物で参加したり、カルチャー教室に地域人材に講師としておいでいただいたりと、本校は、たくさんの地域の方々に支えられております。本年度も学校と保護者、地域が一体となって子どもが心身共に健やかに成長できるよう取り組んでいます。



【生け花】



【パソコン】



【将棋】



【グランドゴルフ】



【読み聞かせ】